

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2170400648
法人名	有限会社 水谷
事業所名	グループホーム すまいる水谷
訪問調査日	平成20年11月25日
評価確定日	平成20年12月24日
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2170400648		
法人名	有限会社 水谷		
事業所名	グループホーム すまいる水谷		
所在地 (電話番号)	〒501-6316 岐阜県羽島市下中町市之枝2丁目401番地 (電話) 058-397-0320		
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内		
訪問調査日	平成20年11月25日	評価確定日	平成20年12月24日

【情報提供票より】(20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6人
職員数	9 人	常勤	4人, 非常勤 5人, 常勤換算 4.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有() 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	5名	男性	0名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	0名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 79歳	最低	61歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小川医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームすまいる水谷は、羽島市の南部に位置し、主要道路より中に入った静かな集落の中にある。車の交通量も少なく散歩をするのに適した神社や近くには大型スーパーや公共施設がある。定員6名で、和やかで家庭的な雰囲気があるが利用者の暮らしが楽しく潤いのある生活ができるよう、また、利用者の健康を考慮した食事作りにも心がけている。退居された利用者家族からのお礼の手紙を額に入れて大切に日々のケアを行う姿勢は管理者、職員のケアに対する熱い思いを感じ取ることができる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善する項目は改善計画に沿って取組んでいる。職員全員での取組みは管理者が自己評価票を配布して意識付けを行っている。教育も管理者が現場での指導ができるように進めている。災害対策、記録の整理も少しずつ検討、改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価については管理者から説明されている。職員は外部評価の意義を理解しているが取組みの主体は管理者が行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は今年は1月、7月、10月に開催されている。議題はターミナルケア、介護保険指定事業所実施指導の報告、消防関係についてなど様々な範囲にわたっている。家族代表や民生委員からの意見もあり、協力的な関係のもとで進められている。また、市の担当者が積極的に係りをもってくださることもあり、ホームは相談できる関係を築いている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時に家族と面談の形をとっている。また、不定期ではあるがホーム便りを作成して利用者の写真とともに暮らしぶりをつたえている。面会のない家族に対しては毎月の請求書送付を利用しての報告を検討予定である。運営推進会議には家族代表が参加しており、建設的意見も得ることができホームの運営に活かしている。第三者委員の紹介も重要事項説明書に明記されて外部者への意見を出せる仕組みがある。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者のほとんどが羽島市に住み票がないこともあってホームとしては地域の自治会に加入しているが老人会の加入はできていない。運営者が地域の役員をしており、自然な形で地域に溶け込むよう努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安全安楽という理念を掲げて、利用者のいつまでも穏やかな暮らしを支えるために必要なことを提供することを目指している。地域の中での生活を支えるということが見えにくい理念となっている。	○	安全安楽だけでは地域に暮らす利用者の暮らしを支える思いが十分伝えることができない。ホームの熱い思いを伝える表現を今一度検討されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は管理者、職員が共有して日ごろのケアの実践の中で振り返っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者のほとんどが羽島市に住民票がないこともあってホームとしては地域の自治会に加入しているが老人会の加入はできていない。事務職員が地域のボランティア役員をして、自然な形で地域に溶け込むよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価については管理者から説明されている。職員は外部評価の意義を理解しているが取り組みの主体は管理者が行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年1月、7月、10月に開催されている。議題はターミナルケア、介護保険指定事業所実施指導の報告、消防関係についてなど様々である。家族代表や民生委員からの意見もあり、協力的な関係のもとで進められサービスに活かしている。		

グループホーム すまいる水谷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の担当者が積極的に係りをもってくれ、ホームと具体的な相談できる関係がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	面会時に家族と面談の形をとって暮らしぶりを伝えている。また、不定期ではあるがホーム便りを作成して利用者の暮らしぶりを伝えている。面会のない家族に対しては毎月の請求書送付を利用しての健康状態を含めた報告を検討予定である。	○	利用者の健康状態や暮らしぶりを知ることで家族の安心と信頼につながるので定期的な報告を期待したい。
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	運営推進会議には家族代表も参加しており、建設的な意見も得ることができホームの運営に活かしている。第三者委員の紹介も重要事項説明書に明記されて外部者への意見を出せる仕組みがある。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の異動による利用者へのダメージを理解し、馴染みの関係が継続されるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員に対しては外部研修の情報を提供して参加を促している。また、職員の教育のため管理者が様々な研修を受けてホーム内での現任教育の充実を図る取り組みをしている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	全国グループホーム協議会、岐阜県グループホーム協議会に加入しており、管理者間の交流はあって情報交換や意見交換がなされている。職員間での交流は現段階ではない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にホームの見学をして、ホームの利用者とも馴染めるようにしてサービス開始ができるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に挨拶を忘れないよう心がけ、季節等を共有する関係作りを行っている。このような関係の上で刺し子の得意とする利用者に教えてもらうなど互いに支えあう関係作りができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日行きたい所、入浴など利用者に確認している。利用者が思いを伝えられない場合は表情などの観察から判断して利用者の思いを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	今年から3ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。計画作成担当は管理者であり、管理者が利用者、家族、職員の意見を聴きながら作成している。記録の種類が多く、内容の重複もあって整理が不十分である。	○	細やかな記録を残したいという思いが記録を煩雑にしている面も見受けられる。記録の整理をすることでケアの実践や計画の見直しが円滑になることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月の見直しがされている。状況に変化がみられる時は本人、家族、主治医と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要時の通院介助、月2回のボランティアによるフットケア、週1回の喫茶店、買い物、文化センター主催のサタデーコンサートなどの参加支援を随時おこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望を優先し、かかりつけ医を決めている。家族の希望があれば通院介助をおこなっている。受診結果は家族に連絡、報告している。		
19	47	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の看取りについては指針に基づき、運営推進会議にも取り上げ、家族、医療と連携のもと方向性やケアについて検討されている。	○	今後さらなる終末期の対応が可能となるよう職員全員が情報を共有し、家族、職員、医療との連携作りを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は知り得た個人情報の守秘義務を徹底している。また、利用者の居室に対するプライバシーにも配慮、その他声かけ、入浴、トイレ介助においてもプライバシーの保護の徹底をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせず、利用者一人ひとりの希望を聞きながらそのペースに合わせた暮らしの支援がされている。		

グループホーム すまいる水谷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に声かけして好みを聞き、出きる範囲で手伝ってもらっている。食事が楽しみになるよう声をかけ、食事介助がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週2回として職員がマンツーマンで入浴介助している。入浴拒否のある人に対しては時間を置いたり、職員が交代して声かけするなどの工夫がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や得意分野を生かし、散歩、レクリエーション、行事、家事など、個々に合わせた楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に配慮しながら、可能なかぎり外出するように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しており、居室や玄関には日中鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成、消防署指導のもと消防訓練と避難訓練を実施している。地域の避難訓練等の参加はまだない。	○	地域の方々の協力が得られるよう、訓練実施日や時間等を書いたものを配布するなどさらなる努力を期待する。

グループホーム すまいる水谷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康に配慮し、栄養のバランス、味付けに注意している。食事量や水分量に配慮しており、記録で管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは清潔感が感じられ落ち着いて過ごせる共用空間になっている。窓から季節感あふれる風景が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族の希望を聞き、使い慣れたタンスや飾り物を持ち込んだり、利用者の作品を飾り、自分の居場所と再認識できるようにし、心落ち着く部屋となっている。		